

2. 健康スケールおよび運動器チェック指標の作成目的

高齢者が、健康スケールを実施し、その判定結果に基づいて自分自身の身体状況を知る（元気度）。また、日常生活の一部として健康づくり及び介護予防に取り組むことで、日常生活に必要な運動器の機能及び口腔機能等の維持向上に努め、健康寿命の延伸に繋げるために、予防医学の考えに基づいた「健康スケール及び運動器チェックの指標開発並びに指標分析」を行うことを目的としている。

高齢化率に変わる新たな指標「元気率」を設けることにより、高齢者自身が日常生活の中で、取り組む際の具体的な目指す目標として活用してもらおう。また、評価項目の中に、予防医学に基づき開発された「ふなばしシルバーリハビリ体操」に関する評価項目を追加することにより、その結果を地区コミュニティにフィードバックし、予防医学に基づく「まちづくり」を推進していく。

・健康スケール指標の開発について

千葉大学予防医学センター辻氏が開発した、「要支援・要介護リスク評価尺度(全国版)」を逆説的に使用し元気度を計る10項目、社会参加として当課事業のふなばしシルバーリハビリ体操事業についての3項目、運動器チェックと連動した設問項目5項目を設定予定。対象の市民に郵送し、記入後返送してもらおう。

・運動器チェックについて

医療機関や介護保険事業所等でリハビリテーション専門職等が実施。問診および、評価により運動器の状態を把握しトリアージを行う。問診・評価を合わせて、項目数は20項目程度を予定。

対象者に利用券を発送。予約した実施機関に問診票を記入したものを持参し、専門職から評価を受ける。1名あたり20分で、評価およびフィードバックを行う。結果判定は、運動器チェックの結果と健康スケールの元気度を合わせたものとする。

運動器チェックを行う専門職は、医療機関で機能訓練に従事する又は、介護保険指定事業所等で機能訓練指導員の職務に従事する常勤の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、はり師又はきゅう師。（はり師及びきゅう師については、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する機能訓練指導員を配置した事業所で6月以上機能訓練指導に従事した経験を有するものに限る。）